

狙いを定めて成果を上げよ!

IT投資の秘策は “選択と集中”にあり

競争が激化する現代社会において、業務のIT化は生き残りをかけた重要な経営戦略の一つと言っても過言ではない。特に資金力やマンパワーでハンデのある中小企業にとって、IT投資の成否は会社の業績を左右することすらある。そのため確実に成果が望める領域に絞った、堅実なIT投資が求められるのだ。

IT化する業務の見極めが 成果を生む投資への第一歩

大企業に比べ資金力や経験で劣る中小企業は、どのようにITを活用すべきだろうか。その有力な戦略の一つに、確実に効果が見込める業務領域に絞つてのIT投資という方法がある。経営戦略に「選択と集中」という考え方があがるが、IT投資についても全く同様のことが言えるのである。中小企業が持てる資金や人材を最大限に活用し、熾烈な市場競争を勝ち抜くためには、IT活用でも効果的に集中投資する「知恵」が求められるのだ。

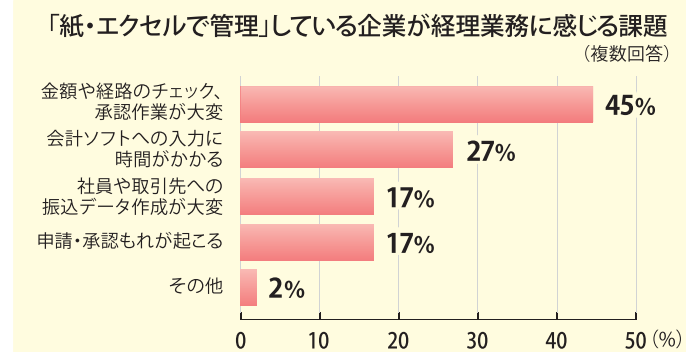
試しに自分の会社の状況を改めて見渡してほしい。常に大きな負担がかかっている現場はないか。単純な作業を人の手で繰り返している業務はないか。明らかに二度手間をしている業務はないか。そうした業務を見極めて効率化してやるのが、成果を生み出すIT投資の第一歩となるのだ。

交通費や交際費などの経費精算はどの企業にも発生する業務であるにもかかわらず、実際には未だに紙やエクセルなどの人手に頼った処理を行っている中小企業が多い。まさに、IT化によって大幅な効率化が見込めるターゲットとして最適な業務領域なのだ。

例えば、営業スタッフが交通費の精算をする場合、自分が利用した交通機関の運賃をネット等で調べ、それを紙やエクセルに転記して申請する。申請を受けた上司や経理担当者は金額に間違いがないか、定期券の区間が控除されているかなどをチェックして承認する。さらに、経理担当者は、そのデータを集計・仕訳して、会計ソフトに入力しなければならぬ。

この一連の業務が経費精算システムだとならぬか。営業スタッフが交通費を申請する際、内蔵された乗換案内ソフトに経路を入力するだけで自動的に運賃が登録される。SuicaやPASMOなどICカードの利用履歴をそのまま読み込んで申請することも可能だ。また、あらかじめ登録した定期区間の運賃は控除されるので、承認者のチェック業務も軽減される。さらに、自動仕訳や会計ソフトへの連携機能など、手作業で行ってきた経理業務を大幅に効率化する機能も備えている。

それでは、経費精算システムによつ



※従業員50人以上の企業のデータ 企業の経理担当者(管理職以上)800人への調査(株式会社ラクス調べ)

効果的なIT活用業務として 注目を集める経費精算

自社にとって最も効果が見込めるIT投資は何か。経営者にとってその判断は難しいところだが、多くの中小企業で成功例となっているのが、経費精算業務のIT化である。

てどれくらいの効果が期待できるのだろうか。

月額3万円の投資で、年間300万円のコスト削減効果

経費精算システムの効果を探るべく、300社近い企業にサービスを

提供している株式会社ラクスを訪ねた。同社の中村崇則社長は、システム開発の経緯についてこう語る。

「当社でも、以前は紙やエクセルで経費精算を行っていました。それが、会社の成長に伴い管理部門の負担が高まり、販売管理や人事管理、経理業務などをトータルに管理できるシス

テムの導入を検討したので。しかし、費用対効果が見えないIT化への多大な投資には踏み切れませんでした」

それならばと、当時最も改善が必要だった経費精算業務に絞って自社で開発したが、現在多くの企業で使われている経費精算システム『楽楽精算』だった。目的にフォーカスしたこのシステムは、人件費換算で月間約30万円、年間では300万円以上の経費削減効果を生み出したという。そして『楽楽精算』の最大の特長は、単純作業を効率化し、お客様によりクリエイティブな仕事に時間を使っていた「中村社長が話す通りの徹底した顧客目線だ。申請書のフォーマットは、導入する企業が従来使用してきた体裁と同じにでき、申請者から承認者へのワークフローも会社ごとに柔軟に設定できる。

「経費精算システム」導入前後の効率化例

	導入前	導入後
社員	<ul style="list-style-type: none"> 交通費を調べて紙やエクセルに転記しなければならない 定期区間の控除に時間がかかり、ミスも起きる 	<ul style="list-style-type: none"> 経路を選択すれば自動的に交通費が計算される ICカードの利用履歴がそのまま読み込める 外出先からも申請できる
上司	<ul style="list-style-type: none"> 金額、経路、定期区間控除のチェックが大変 出張などの不在時に承認が滞る 	<ul style="list-style-type: none"> 「定期区間控除」などの機能でチェックが効率化 出張先などからも承認できる
経理担当者	<ul style="list-style-type: none"> 仕訳作業や会計ソフトの入力が大変 社員や取引先への振込に時間と手間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> 手作業だった自動仕訳や会計ソフトへの入力が自動化 振込データ作成機能で、業務が大幅に短縮・効率化

しかも、インターネットを経由して必要な時に必要な機能が利用できるクラウドサービスなので、導入のための時間と初期投資が少なく、バージョンアップも自動的に行われる。ちなみに『楽楽精算』の場合、初期導入費用



株式会社ラクス
代表取締役社長
中村 崇則氏

1973年生まれ。本来高額な業務系システムを、クラウドを利用し低価格で提供することで多くの支持を集める。中小企業を中心にクラウドサービスの導入実績は1万社以上、設立以降13年連続で増収を達成するなど成長を続けている。